

江戸前の釣り復活めざしマコガレイ放流

東京湾遊漁船協組が羽田沖



東京湾遊漁船協組の組合員が羽田沖で放流、活魚輸送車からバケツリレーで放流船に積み込み



東京湾遊漁船協組(飯島正宏理事長)は、7月14日、東京湾の羽田沖に集合、今回も山口県マコガレイ稚魚の放流を組合員ら15名が午前8時

沖の浅場1方所で実施、約1万尾を放流した。

当日は東京都大田区にある船宿「まる八」船着

場へ東京湾遊漁船協組の組合員ら15名が午前8時

からマコガレイの稚魚を積み込んだ活魚輸送車も到着しており、早速、作業を開始した。このマコガレイの稚魚は神奈川県栽培漁業協会を通じて、下松市栽培漁業センターから入手したもので体長を計測すると平均5センチ程度。それを同協組の青年部らが活魚車からバケツリレーで放流船に運搬、積み込みを終えたら羽田沖へ出船した。

この日、東京湾あたりの天気は予報では曇り雨となっていたが、何とか持ちこたえ、羽田沖の浅場に着くと早速、次々と手際よく放流して、9時過ぎには終了。帰港して解散した。

今回のマコガレイ放流に関して同協組は「江戸前の釣り復活をめざし

からマコガレイの稚魚を積み込んだ活魚輸送車も到着しており、早速、作業を開始した。このマコガレイの稚魚は神奈川県栽培漁業協会を通じて、下松市栽培漁業センターから入手したもので体長を計測すると平均5センチ程度。それを同協組の青年部らが活魚車からバケツリレーで放流船に運搬、積み込みを終えたら羽田沖へ出船した。

「と概ね次のとおり見解を述べている。東京湾のマコガレイは、江戸前のカレイとして古くから人気があり、冬場のカレイ釣りは風物詩でもあったが、釣場が次々に埋め立てられ産卵場所も少なくなり、近年絶対数が激減。10年ほど前から、乗合船の出船もほとんどなくなった。組合ではカレイの他メバルとカサゴについても毎年放流を行っている。組合では江戸前の釣りの復活をめざして長年活動してきており、その他の魚種の放流も課題となっているが、難しい問題も多く

マコガレイ稚魚	10,000尾
日時	令和3年7月14日
場所	大田平和の森公園2丁目 地先 まる八 棧橋
内容	体長測定

マコガレイ稚魚を計測

ても毎年苦労している状況。そして飯島理事長は「マコガレイは東京湾で激減した魚種の代表格。組合としては、今後も稚魚が手に入れば、放流を毎年続けていきたい。放流を始めると5年目になりそろそろ効果が出てきていい年になってきています」と述べている。毎年放流を行っている羽田沖浅場については羽田空港東側に約8キロわたって砂底の浅場が造成されておりカレイの産卵や生育に適している海域になっている。今回放流したカレイの稚魚は5センチ前後。